

《担当者名》吉田 繁

【概要】

臨床検査学総論は臨床検査の基礎となる学問である。臨床検査技師を志す学生諸君が最初に学ぶ臨床検査の専門的科目であることから、臨床検査技師としての心構えや臨床検査の全体像を理解した上で、臨床検査全てに関連する検体の採取方法や取扱方法を学び、次いで、一般検査の主要な検体である尿について学び、その各種成分を対象とした検査の種類、測定原理や意義を理解する。

【学修目標】

- 1) 一般検査の意義を理解するために、尿検体の採取や取り扱い、測定原理に関する知識を身につける。
- 2) 正常な尿の生成機序や尿中成分を理解し説明できる。
- 3) 尿中の各種成分の測定原理、方法および意義を理解し説明できる。
- 4) 測定対象項目の測定に影響を与える共存物質を説明できる。
- 5) 測定結果と病態変化との関係を説明できる。

【学修内容】

回	テーマ	授業内容および学修課題	担当者
1	尿の生成と組成	・尿の生成機序と組成 教科書：一般検査学 第2章-I、II、III	吉田 繁
2	尿の一般的性状	・尿の一般的性状 ・尿試験紙の取扱方法と注意点 教科書：一般検査学 第2章-IV	吉田 繁
3	尿比重、尿浸透圧の検査法	・尿比重の化学的検査法と意義 ・尿浸透圧の検査法と意義 教科書：一般検査学 第2章-V-1、2、3	吉田 繁
4	尿蛋白	・尿蛋白の化学的検査法と意義 教科書：一般検査学 第2章-V-4、6	吉田 繁
5	ベンスジョーンズ蛋白	・ベンスジョーンズ蛋白の化学的検査法と意義 教科書：一般検査学 第2章-V-5	吉田 繁
6	尿糖	・尿糖の化学的検査法と意義 教科書：一般検査学 第2章-V-5	吉田 繁
7	ケトン体	・ケトン体の化学的検査法と意義 教科書：一般検査学 第2章-I～IV、V-1～6	吉田 繁
8	尿検査のまとめ	・尿検査結果の評価 ・検査結果から病態を考える。 キーワード：慢性腎臓病、糖尿病、多発性骨髄腫	吉田 繁

【授業実施形態】

遠隔授業

授業実施形態は、各学部（研究科）、学校の授業実施方針による

【評価方法】

定期試験 80% 小テスト 20%

【教科書】

三村邦裕 他 編集「最新 臨床検査学講座 一般検査学 第1版」 医歯薬出版 2016年

#### 【参考書】

伊藤機一 他 編集「標準臨床検査学 臨床検査総論 第1版」 医学書院 2015年  
河合 忠 他 編集「最新尿検査 - その知識と病態の考え方 - 第2版」 メディカル・ジャーナル 2016年  
一般社団法人 日本臨床衛生検査技師会 監修「JAMT技術教本シリーズ 一般検査 技術教本」 丸善出版 2017年  
池本正生 他 監訳「ブルンツェル 尿・体液検査 - 基礎と臨床 - 」 西村書店 2007年  
二宮治明 「N教授の生理学講義ノート」 日本医事新報社 2016年  
岡庭 豊 他 「病気が見えるVol.8 腎・泌尿器 第3版」 メディックメディア 2019年  
岡庭 豊 他 「病気が見えるVol.3 糖尿病・代謝・内分泌 第5版」 メディックメディア 2019年  
岡庭 豊 他 「病気が見えるVol.5 血液 第2版」 メディックメディア 2017年  
岡庭 豊 他 「病気が見えるVol.6 免疫・膠原病・感染症 第2版」 メディックメディア 2018年  
福島亜紀子 「ポケットマスター臨床検査知識の整理 一般検査」 医歯薬出版 2019年

#### 【備考】

その都度プリントを配布する。  
クリッカーを使用した双方向型授業を行う。  
Google Formを利用して学習課題（小テスト）を提示する。

#### 【学修の準備】

今回の授業内容について、教科書を読み理解しておくこと。（80分）  
復習は、教科書や配付資料、小テストを活用し学習を深めること。（80分）

#### 【ディプロマポリシーとの関連性】

（DP2）臨床検査に必要な知識と技術を習得し、先進・高度化する医療に対応できる実践能力を身につけている。

#### 【実務経験】

臨床検査技師

#### 【実務経験を活かした教育内容】

医療機関での実務経験を活かし、検体採取から結果の解釈までに関する基本的知識を講義する。